

会議状況等報告書							報告者	森川 陽子			
会議の名称		令和5年度第3回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会									
日時		令和6年2月5日(月) 午後1時25分～午後3時15分					場所	おおぶ文化交流の杜図書館 会議室2・3			
出席者	委員	加古 有子	松岡 礼子	岡田 知之	竹内 紀人	鈴木 善博	平塚 友美	赤堀 路世	神田 由美		
		○	○	○	○	○	○	○	○		
	事務局	近藤 部長	田中 課長	永露 係長	小野 主事	森川 主事	村上 図書館長	小倉 マネージャー	上野 顧問	眞 静代	
欠席		○	○	○	○	○	○	○	欠席	○	
傍聴者 0名											
内容											
<p>1. あいさつ</p> <p>委員長あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年明けから災害や事故など気が重い報道があったが、私たちは本の力を信じていつも通り過ごすことが大切だと感じた。本日もよろしくお願ひしたい。 <p>2. 議題</p> <p>(1) 令和5年度8月～11月事業実施報告について</p> <p>※資料1～5に基づき事務局説明</p> <p>【意見交換】</p> <p>(委員) 2点確認したい。1つ目に、p5の「地区別登録者数」について、自治体によっては貸出カードに有効期限を設けているが、大府市では設けているか。または検討したことはあるか。2つ目に、p7～10の年代別貸出統計について、貸出カードを使うのは本人以外も可能か。例えば、こどもの貸出カードで保護者が本を借りることもできるのか。</p> <p>(館長) 有効期限については、3年となっている。期限切れ後は、カウンターで住所等の登録情報に変更がないかを確認し、変更が無ければ再度3年間の期間更新となる。本人以外の利用については、家族であれば使用可能としている。例えば、こどもの貸出カードと保護者の貸出カード2枚を使用して、保護者がそれぞれ最大貸出冊数借りていくということもあった。</p> <p>(委員) 家族内で貸出カードの貸し借りをしている可能性があるので、年代別の貸出統計は大まかな傾向を把握するものとして見るという認識でよいか。</p> <p>(館長) その認識でよい。</p> <p>(委員) 有効期限を設けることは良いことだと思う。また、登録者数については、有効登録者数^{*1}の動向も重要だと考える。統計を出すなどを検討していただけたらと思う。登録者数が減少しているという報告があったので、いろいろな対応や対策</p>											

をとってもらいたい。

※1 有効登録者数とは、登録者のうち実際に利用のあった人数。(飯能市立図書館 HP より引用)

(委員) p 1 の「返却点数」について、前比で 94.2%となっているが、100%を切るということは紛失が増えているのか。

(館長) 紛失冊数は蔵書冊数 42 万冊に対して 10~20 冊程度と少ないので、時間的なズレが原因でこの数値になっていると思われる。

(委員) 貸出冊数が昨年より下回っているので、返却点数も 100%を下回っていると考えられる。

(委員) 各事業のアンケートにおいて、厳しい意見をいただいていることもみられるが、フィードバックはしているのか。改善はされているのか。

(館長) アンケートのご意見については、登壇した講師に共有している。また、今年度も開催する事業があるので、その際には反省事項を活かして進めていきたいと考えている。

(委員) 夏休みの事業は、参加率が非常に高く、抽選になることが多い。申込時にどこまで企画の内容を協議しているかは不明だが、参加希望者にあらかじめ対象年齢や参加型なのか講話を聞くのかなど内容を伝えると、人数も絞られるのではないかと思う。特に人気の高い講座は募集方法についても検討すると、参加者の満足度が高くなると思う。

p 7 「貸出統計」の「一般・文庫」について、71~80 歳の貸出数が多い。大きな単行本よりも、文庫本を持つ人が多いと考えられる。また、時代小説が人気だと聞いた。新刊を購入する際に、参考になると思う。「一般・ティーンズ」について、41~50 歳の貸出が多いのも気になった。先ほどの話でもあったが、保護者の貸出カードで子どもが借りたのか、保護者が頼まれて借りたのかは不明だが、保護者向けに図書館の PR をするのも方法として効果的なのではないかと思った。

(事務局) ティーンズのジャンルには受験関係の図書も含まれるので、実際に保護者が本を借りているかもしれない。

(委員) 「こんな小説も勉強の参考になる」など PR の仕方もよいと思う。

(委員) 受験に役立つコーナーを作るのも面白いと思う。例えば、古典文学の説明書など、世界観が分かるとより古典を理解しやすくなることもある。他にも、現代語訳されたものを、読み比べると面白いかもしれない。受験コーナーを作ることによって、受験生だけでなく家族でも話題になるなど注目されることが期待できる。

(2) 第3期おおぶ文化交流の杜中期事業計画について

※資料別冊に基づき事務局説明

【意見交換】

(委員) 来館者数の目標値である 50 万人は、図書館のみの数値か。それとも施設全体か。

(館長) 図書館のみの目標数値である。図書館入口のゲートをくぐると人数のカウントが

される。

(委員) 令和2年から4年間委員を務めさせていただいた。今回、第3期中期事業計画を説明されて率直に思うのは、目標値を高く掲げてもいいのではないかと思った。10年間、全く数値が変わらない項目もある。利用者や市民と一緒に議論することも必要だと思う。例えば、資料3、p5の市内貸出冊数が約26万冊で、市外は約19万冊と報告があったが、割合を出すと市内で貸出されたのは全体の約58%、市外は約42%となる。私が委員になった4年前は市外の貸出割合が約30%ほどだった。市外の貸出冊数の割合は伸びたのに対して、市民の貸出冊数は伸び悩んでいる。それはなぜなのか。原因を追究することで課題が見えてきて、それを指標に反映させるべきである。

(事務局) 市としても貴重な意見として受け止め、市民の声を反映できるようにしていきたいと思う。

(委員) 第3期中期事業計画について、この場で何を議論したらいいのか。例えば、来場者が現在42万人なので目標値が50万人という数値が適正なのかを検討するのか。そのためには、計画を作成した際にその数値を達成可能と考えているのか、また、達成するためにどのような対策をするのかをセットで説明すべきである。また、大学では電子書籍が主流になりつつあるが、今後、電子書籍に重きを置いてもらいたいなど意見できる場なのか。

(事務局) この第3期中期事業計画は、おおぶ文化交流の杜全体の計画であるため、正式には(図書館運営委員会の上位に位置する)運営協議会で決定される。今のような議論もテーマになるので、そういう意味で意見があればいただきたい。電子書籍については、PFIを活用した際に条件を付けていなかった。図書館の指定管理を決定した時に15年の枠が決まってしまうところもあった。一方で、忌憚ない意見をもらってよくしていきたいとも考えている。

(委員) それでは、要望的な意見になるが、今後、電子書籍にも重きを置いていただきたいと思う。また、電子書籍の使い方の勉強会を年2~3回開催するなど、若い人だけでなく幅広く活用されるようになることを期待する。

(館長) 他市では、電子書籍のコンテンツを2万件用意しているところもあり、大府市では2千件と圧倒的に少ないのは事実である。限られた予算内で電子書籍を増やすと、紙の書籍が購入できなくなってしまうので、急に増やすことは困難である。そこで、雑誌スポンサーをつけるなどして予算を確保し、収入分を電子書籍に充てるなど、今後5年間で大府市と検討して実施できたらよいと考えている。資料費の配分を協議するとともに、電子書籍を活用してもらえるように館内で図書館職員がタブレットを持って呼びかけようという計画がある。

(委員) 2点意見を述べたい。1つ目は、電子書籍をどう普及させるかということである。若い人の図書館利用を増やすためにも、学校の先生に使えるコンテンツをアピールするとよいと思う。学校の先生は、こどもとの距離が近いため、小中学生には影響があると思う。2つ目は、至学館大学で「バイオリンと書籍」という事業を企画している。グラフィックノベル(コミック)を用意し、大人とこどもをつないで、本と一緒に味わうというバリアフリー図書館を目指している。

(委員) 目標値の話に戻るが、15年間目標が横ばいなのは代わり映えしない。内容を充実させてほしい。大府市の強みはサポーターが多い事だと思う。そういった強みを伸ばして弱みを克服することが図書館では重要であると思う。15年の計画というのは長いスパンなので、市民の方が大府の図書館を利用したいと思う事業を展開して行ってほしい。ランガナタンの「図書館学の五法則」に「図書館は成長する有機体である」とあるが、図書館が生き残っていくために、職員も、施設も、蔵書も、サービス形態も常に成長しなければならないという意味を持つ言葉である。当該図書館もその言葉を覚えて運営して行ってほしい。

(委員) 電子書籍について、こどもたちは慣れているので重点を置くのは必要なことだと思う。ただ、電子書籍で終わってしまうのはもったいないと思う。例えば、名古屋では新刊を借りるのに3～5年待つこともあるが、大府市では1年で借りられるという話を聞いたことがある。そういったことをきっかけに足を運んでもらうなど来場者数の増やし方もあると思う。おおぶ文化交流の杜は、文化交流の拠点となることが期待され、文化は人との交流がないと育たない。現代では、デジタルの中で終わってしまい、他人と交流をしなくてもいいと考えるこどもも多いと思う。人との交流をしてもらえよう場になることを期待している。大府の強みを生かして今後どのように運営していくのがいいのか、他市でも色々な図書館運営が模索されているので、どのような図書館がふさわしいのか検討して行ってほしい。

蔵書冊数について、40万冊が最大のキャパシティと報告があり、新刊を増やすには古い本を減らす必要があると思うが、単に読まれていないから、という理由で処分してしまうのではなく、文化的・歴史的に価値があるかもしれないなど考慮して選出してほしい。

(委員) 市民向け講座について、実施回数が目標値を上回っているがそのままでいいのかも気になる。事業報告でもあるように、市民向け講座を多数開催していることも強みであるならば、講座の際に講座内容に関わる本を用意しておくとも借りてもらえるのではないかと。そういったアプローチもできるとよいと思う。

(委員) 受験コーナーを作ったらどうか、という意見があったが、今まで目につきにくかった本が見られるきっかけになってよいと思う。グループ室前の移動棚にコーナーが作られているが、使用者として魅力をあまり感じない。せっかく場所がよいのもったいないと思う。わっと思う場所になったらよいと思う。

(委員) 棚の2段目だと下の方は見えにくいし、手に取りにくい。

(委員) 活用できるような工夫があるといい。

(事務局) 3か月に1回、掲示板に載せているが見られていない。ポップなど目をひくように思っているが、努力していきたい。

(委員) 広報で掲載したり、SNS、HPは載せているか。

(事務局) 載せている。

(委員) 今後も活用方法やPR方法を検討し、利用者が増えるとよい。

3. その他

(委員) スージー・リー韓国現代絵本の翻訳版『どうぶつえん』について、刊行が決定した。電子書籍も用意している。

【次回開催連絡】

令和6年度第1回おおぶ文化交流の杜図書館運営委員会

日程：令和6年5～6月開催予定

場所：おおぶ文化交流の杜

以上